

## EHSマネジメントシステム(1)

東京エレクトロングループでは、環境・健康・安全のEHS「Environment, Health and Safety」活動をグローバルに推進していきます。

### EHS推進活動の体制

東京エレクトロングループでは、EHS活動のグローバル化に伴い、東京エレクトロン社長、取締役および環境安全担当役員で構成されたグローバルEHS会議を編成しました。この会議体を頂点として、当社グループのEHS活動の指針や方向性を決定します。当社グループでは、EHSに関する活動体制を「ファクトリー&オフィスEHS」「顧客先作業EHS」「プロダクトEHS」の3つの柱とし、推進しています。

### ファクトリー&オフィスEHS

事務所系事業所の代表者で構成されている「TELグループ安全衛生委員会」と製造系事業所の代表者によって構成されている「TELグループ環境安全推進委員会」により、各地区に根ざしたEHS活動を推進しています。製造系事業所では、EHSマネジメントシステムを、事務所系事業所では「TEL Eco-Activity」による環境管理システムを構築して、EHS活動を推進しています(22ページ参照)。

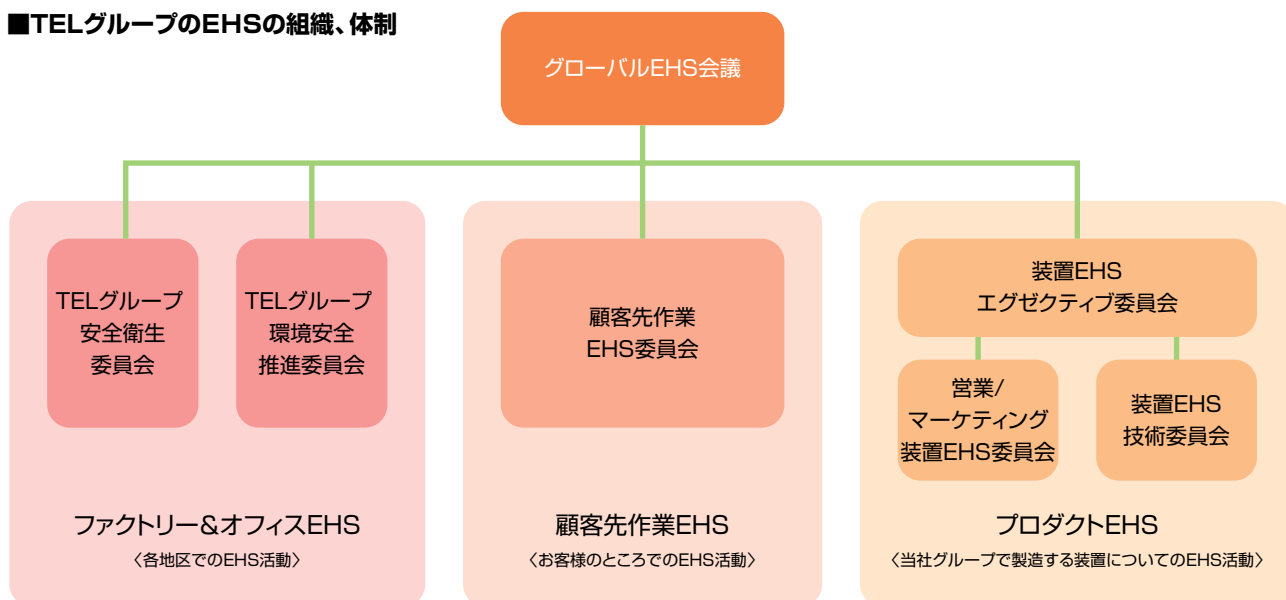
### 顧客先作業EHS

各BU(ビジネスユニット)の顧客先作業をするものの代表者および各国の代表者で構成された顧客先作業EHS委員会により、お客様の現場作業に関するEHSを推進しています。各国での作業上の法的要求や作業方法の適正化、各現地法人へのEHS事項の伝達・支援などを行っています。

### プロダクトEHS

各BUの開発・マーケティング・営業役員およびEHS担当役員により構成された装置EHSエグゼクティブ委員会を上位組織とし、「営業/マーケティング装置EHS委員会」「装置EHS技術委員会」を分科会として、当社グループで製造する製品についてのEHSを推進しています。当社グループ装置へのEHSに関する事項は、お客様からの要求事項として明記されるようになり、製品の初期開発および設計段階でEHSのコンセプトを取り入れることが重要な課題となっています。さらに、当社グループのグローバル化に連動して各国の法律への適合も求められています。これらに対応し、さらに推進するため積極的にDF EHS(デザインフォーEHS)を推進しています。

### TELグループのEHSの組織、体制



## EHSマネジメントシステムの考え方

製造系の各事業所では、ISO14001に基づく環境管理システムを構築し、認証を取得しています。また、OHSAS18001および厚生労働省指針などに基づいた「労働安全衛生マネジメントシステム」の構築も開始しています。事務所系事業所では独自の簡易環境管理システム「TEL Eco-Activity」を導入しています。

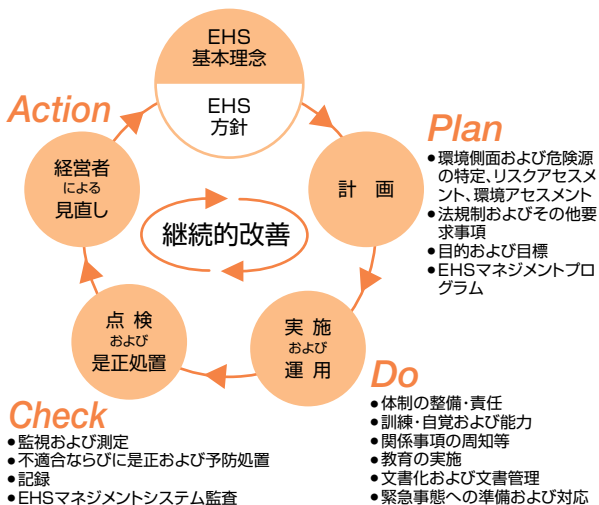


ISO14001の認証

## EHSマネジメントシステムの実行

各事業所では、事業活動、製品の製造・開発、サービスなどに伴う環境側面がどのように環境へ影響を与えているのかを環境影響評価により把握し、重みづけを行っています。また、安全・衛生に関するリスクアセスメントを行うことにより、作業に伴う安全・衛生面でのリスクを把握することで、こちらも重みづけを行っています。これにより特定された環境側面とリスクは、その危険性を減少させるために、プログラムを作成し（PLAN）→計画的に活動を行い（DO）→確認し（CHECK）→見直しをする（ACTION）という“PDCA”のサイクルで改善活動を行っています。

## ■EHSマネジメントシステム体系



## TEL Eco-Activityの活用

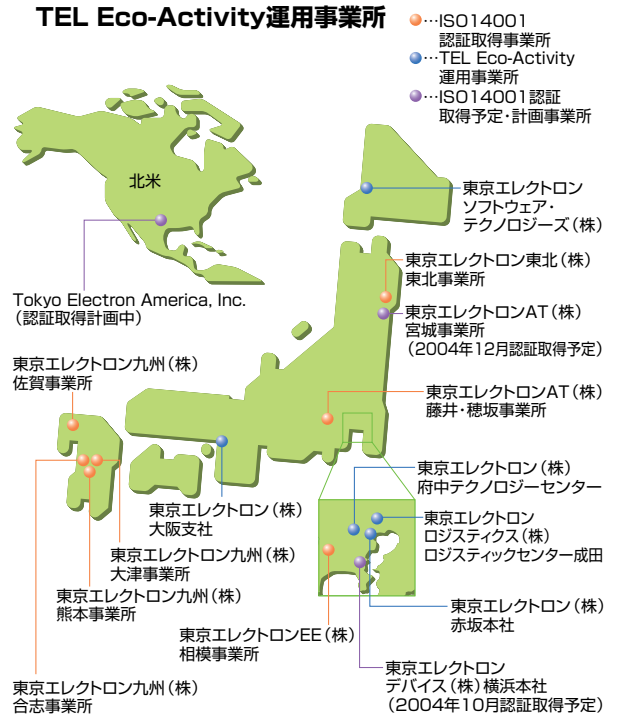
当社グループでは、ISO14001をベースに独自の環境管理システムである「TEL Eco-Activity」を構築しております。昨年からは、事務所系事業所でこの「TEL Eco-Activity」を推進しており、府中テクノロジーセンターでは「使用電力量昨年度比5%削減」「リサイクル率の向上」「通勤経路の清掃」の目標を掲げ、活動を行いました。

また、省エネルギーについては「空調機の温度設定の変更」「昼休みの消灯」などを実施しました。今後も省エネルギー活動や省資源活動などを継続的に行い、目標達成ができるよう励行していきます。また、東京エレクトロデバイス(株)横浜本社は、TEL Eco-Activityをさらに推進し、2004年10月までのISO14001認証取得を予定しています。



Eco-Activity管理プログラム

## ■ISO14001認証取得事業所とTEL Eco-Activity運用事業所



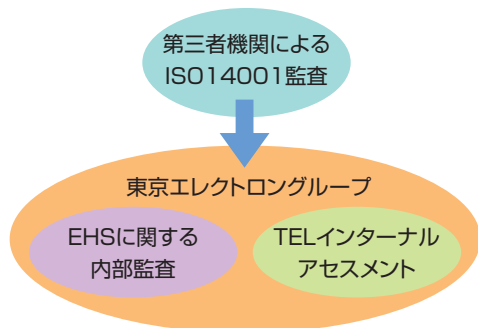
## EHSマネジメントシステム(2)

EHSマネジメントシステムのチェックを複合的に行っています。

### EHS活動のチェックの考え方と体制

東京エレクトロングループでは、EHSマネジメントシステムの強化のためPDCAサイクルのチェック機能を担う監査部分のレベルアップを図っています。監査などのシステムおよびパフォーマンスについてのチェックは、大きく内部、グループ内、第三者の視点により複合的に行われています。

#### ■EHS活動のチェック体制



### TEL インターナルアセスメントの実施

当社グループでは、各事業所で行う「EHSに関する内部監査」、第三者機関が行う「ISO14001に関する環境マネジメントシステムの監査」などこれまでも監査活動を積極的に実施してきました。しかし、これらの監査方法だけで納得するのではなく、各事業所のEHS代表者がEHSに関する項目評価を相互に行う“TEL インターナルアセスメント”を2002年度から開始しました。

当社グループ内の事業所が相互にアセスメントを行うことにより、グループ事業所全体の現状の把握に努め、EHS活動レベルの平準化と改善活動に結びつけています。また、2002年度は当社グループで運用している作業安全にかかわる規程に基づき「経営層の取り組み」「遵法」「責任・体制」などについてアセスメントを行いました。2003年度は、テーマ内容を変えてさらにレベルアップを図っていきます。



現場巡視の様様

### 法規制の遵守(コンプライアンス)

当社グループでは、環境法令や排出基準などの法規制を確認し、一部では自主基準を設け、法規制遵守に努めています。化学物質の管理状況や水のpHチェックなど、日々の活動の積み重ねによって、厳しい基準をクリアしています。穂坂事業所では、排水の一部を最終放流前に社内の貯水池でpHなどを確認して放流しています。

これにより、2002年度は環境関連の事故・違反・罰金・苦情、これにかかわる訴訟、また政府による経済的制裁・奨励金の利用はありませんでした。



放流前の貯水池

## TOPICS

### 土壌・雨水浸透水の測定

相模事業所では、1997年度のISO14001認証取得時より、土壌および雨水浸透水の測定を行っています。また、過去に使用していた有機塩素系化合物、現在使用している化学物質数10項目についても、観測孔や雨水浸透槽の浸透水を対象に測定しています。



土壌調査 現場写真

これらの測定は毎年行っており、その結果は、土壌および水質の環境基準、県条例などに照らし合わせ、遵法状況を確認しています。

#### ■土壌測定結果

分析内容	自主基準値	測定結果
鉛及びその化合物	0.01mg/l	0.005mg/l未満
フェノール類	0.5mg/l	0.003mg/l未満
銅及びその化合物	1mg/l	0.05mg/l未満
亜鉛及びその化合物	1mg/l	0.11mg/l
鉄及びその化合物	3mg/l	0.05mg/l未満
マンガン及びその化合物	1mg/l	0.02mg/l未満
クロム及びその化合物	2mg/l	0.05mg/l未満
フッ素化合物	0.8mg/l	0.1mg/l未満

2002年度は上記8項目を含め18項目を測定